

2021年12月1日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 34

Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第39回総会・学術大会案内



大会長 山下 善弘

(宮崎大学医学部 感覚運動医学講座顎顔面口腔外科学分野 教授)

会期 : 2022年6月23日(木) ~ 25日(土)

会場 : ニューウェルシティ宮崎

(宮崎県宮崎市宮崎駅東1-2-8)

この度、一般社団法人日本顎顔面補綴学会第39回総会・学術大会を2022年6月23日、24日、25日の3日間にわたり当教室の主幹で開催させて頂くことになり、大変光栄に存じます。2020年6月に第37回総会を宮崎で開催させて頂く予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、中止させて頂くこととなり、ご参加をご検討して頂いていました会員の皆様にはご迷惑をお掛けすることとなりました。今回こそは宮崎での初開催をと強い想いで、医局員一同で準備を進めております。まだまだ先行きが不明な状況ではありますが、対面とWEBを併用したHy-

brid開催の可能性も残しておりますが、現地開催を基本に計画しております。是非多くの方にご参加を頂ければと思います。

今回のテーマは第37回の予定でありました「顎顔面補綴の新たな展開—外科と補綴の融合—」をさらにプラスアップして、お届けしたいと考えております。本学会は歯科医師だけでなく医師、看護師、言語聴覚士など様々な分野からなる学会です。本大会を通じ、外科と補綴だけでなく様々な分野が融合することで新たな展開へと本学会が前進することを期待しております。宮崎県は「神話のふるさと」であり、数多くのパワースポットもあります。現地会場にご来場いただける皆様には、パワースポットからエネルギーを養って頂き、白熱した議論に参加していただけることを期待しております。また、Hybrid開催となりました場合でもWEBを通して、熱いエネルギーをお届けできるよう、教室員一同で心を込めて準備をさせて頂きますので、宮崎で皆様のお越しを心よりお待ちしております。



会場：ニューウェルシティ宮崎

第38回総会・学術大会報告

令和3年6月3日（木）～5日（土），奥羽大学歯学部歯科補綴学講座 山森徹雄大会長のもと，「私たちが提供すべき顎顔面補綴治療」のテーマで，日本顎顔面補綴学会第38回総会・学術大会がWeb開催されました。前年度の学術大会・総会は新型コロナウィルス感染の拡大に伴い中止となつたため，2年ぶりの開催となりました。

特別講演，シンポジウム，教育研修会はZoomウェビナーを使用したLIVE配信，認定医症例発表はZoomミーティングという形態での開催でした。

シンポジウムⅠでは2019年に公開された顎顔面補綴診療のガイドラインの策定に尽力された大山哲生先生，宮前真先生，服部万里子先生，皆木祥伴先生が担当された項目の論文の検索方法や参考としたその理由について解説していただきました。

シンポジウムⅡでは門田千晶先生，澤田俊輔先生，内藤博之先生が，地域における顎顔面補綴の問題点と難しさ，補綴治療の出来る人材の育成の大切さを訴えておられました。今回一般口演はe-Posterで22演題が発表され，討論時間にはチャット形式で活発な質疑応答が行われていました。

前例のない開催形式となり，山森大会長をはじめ準備委員会・大会事務局の奥羽大学歯科補綴学講座の先生方のご苦労，ご尽力は計り知れませんが，参加者は200名，滞りなく開催されました。予定の調整の必要性が低いため参加しやすく，会場を移動することなく聞きたい講演を効率よく聴講でき，スライドも良く見えるというWeb開催の利点もある一方で，本学会特有の熱い討論，フロアや懇親会での会員の交流，情報交換という貴重な機会が得られないという大きな欠点もあります。休憩時間での情報交換や懇親会が無かつたため，「いささか物足りない」と感じた先生方も多かったのではないかでしょう。

本学会に限らず，学会開催に関して今後どのような形式が主流になるのかはわかりませんが，第38回総会・学術大会は貴重な学会となりました。来年は集会型で無事開催されることを願います。

（広報委員 宮本哲郎）

特別講演



私と顎顔面補綴の関わり

鰐見 進一先生

九州歯科大学歯学部

口腔機能学講座

顎口腔欠損再構築学分野

大会初日の午後には鰐見先生により特別講演が行われました。

鰐見先生は1985年に九州歯科大学大学院を修了され，以降35年間，日本の顎顔面補綴治療を長きにわたり牽引されるとともに，日本顎顔面補綴学会の理事長，第25回学術大会の大会長を歴任され，本邦における顎顔面補綴の発展に多いに寄与されました。

本講演では，鰐見先生の学会への入会のきっかけや，本学会での症例発表の様子を当時の学術大会の模様を交えて講演され，当時を知る会員にとっては懐かしく，知らない会員にとっては驚きを感じたことと思われます。また，患者さん一人ひとりに合わせて工夫を凝らした貴重な症例の数々をご供覧いただき，鰐見先生の，顎顔面補綴治療に対する熱い思いがあふれる講演となりました。また，代議員，理事，理事長としても多くの功績を成し遂げられ，なかでも，理事長を努められた際に，次世代育成事業としての，若手研究者短期海外研修事業を開始させ，多くの若手研究者に海外研修の機会を与えてくださいました。講演の最後には，多職種連携によるチームアプローチ，外科的再建の進歩やデジタルテクノロジーの推進など，これから顎顔面補綴学会への提言もいただきました。講演を通して，改めて鰐見先生が日本顎顔面補綴学会に残された多くの功績を感じることができ，参加者一同にとって，Web開催であることを失念して思わず立ち上がって拍手をしてしまうほどの大変感慨深い講演となりました。講演の最後には，座長の山森先生より感謝状が贈呈されました。

（広報委員 吉岡 文）

第25回 教育研修会

「粒子線治療の基礎と臨床」



Zoom ウェビナーにて行われた教育研修会
演者の**村上和裕先生**（新潟大学包括歯科補綴学分野、左上）、**伊川裕明先生**（量子科学技術研究開発機構 QST 病院、右下）、座長の**大山哲生先生**（日大、左下）、**山内健介先生**（東北大、右上）

土曜日の午前中に開催された教育研修会はオンラインながら大勢の会員が参加し、多くの質問が寄せられ、大変盛況となりました。

伊川先生の講演では、粒子線の種類、重粒子線治療についてどのような治療法であるのか、重粒子線の特徴である生物学的・物理学的特徴、特に腫瘍にピンポイントで高いエネルギーで照射できる利点と有害事象について、対象疾患について基礎知識をわかりやすくご説明いただき、さらに、術前に行わなければならない歯科治療について実際の症例を交えて詳しく解説いただきました。

村上先生は顎顔面補綴治療の立場から、重粒子線治療施設とのチームでの連携について、治療方針の決定から紹介された場合にどのような治療が必要か、短期間での金属除去と仮歯仮着、マンパワーの確保の必要性について、難症例をあげて解説いただきました。

重粒子線治療後の患者に対する歯科治療を治療前から治療施設、近医、歯科で連携してチームを組んで治療を行うことが重要であり、顎顔面補綴に携わる学会員の知っておくべき知識と長期間にわたる治療経過とともに生じる晚期障害を、患者と共に考えていく必要性と課題を示してくださいました。一緒に治療していくメンバーとして、会員一同大変感銘を受けました。

（広報委員 大木明子）

関連学会報告

International Anaplastology Association

2021年6月4日（金）～5日（土）まで、International Anaplastology Association の第34回学術大会がオンラインにて開催されました。昨年の学術大会はCOVID19の影響により中止となつたため、2年ぶりの開催となりました。プログラムは基調講演や特別講演に加えて、4回の“Roundtable session”がありました。これは、Zoomの“ブレイクアウトルーム”機能を利用して、参加者が各回にそれぞれ与えられた2種類のテーマのうち、参加したいテーマのセッションをどちらか選択し、そのテーマに沿って自由にディスカッションするというものです。テーマは“シリコーンの接着”や“インプラントのポシショニング”など多岐にわたるものでした。なかでも、「3D Workflows in Treatment Planning & Fabrication」のセッションでは、他のAnaplastologistがどのようなスキャナやプリンタ、ソフトウェアを臨床で使用しているのか、実際に意見を交換できる良い機会となりました。また、参加者はアメリカ、ヨーロッパだけではなく、アフリカ、南アメリカ、ロシアなど、世界中の様々な国から参加しており、オンラインならではの良さがあったと感じました。学会の最後には“Virtual Happy Hour”もあり、対面での懇親会のかわりに近況を報告しあいました。（広報委員 吉岡 文）

第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会報告

2021年8月19日（木）～21日（土）に、名古屋国際会議場とオンラインのハイブリッド開催の形で、表記学会が開催されました。本来であれば2021年は広島にて開催予定でしたが、延期された第2回世界嚥下サミットの開催に併せて場所を名古屋に移動し、合同大会となりました。参加者は約6,600人と大変盛況でしたが、例年、



Newsletter No. 34

Maxillofacial Prosthetics

講演会場に聴講者が入りきれない状況であることを鑑みると、今後もオンラインとのハイブリッド開催を検討して頂きたくも思います。

さて、顎顔面補綴に関わる演題は、小生が数える限り4演題でした。中でも、東京医科歯科大学摂食嚥下リハビリテーション学分野が発表した2演題は興味深かったです。紹介したく思います。1つは、舌がん患者の再建舌体積が栄養状態を示すBMI変化率に相關していたというもの、もう1つは口腔がん手術直後の栄養摂取のために留置される経鼻胃管を抜去できるまでの日数は、口腔や咽頭関連の指標ではなく、食道入口部開大量に依存していたものです。頭頸部がんの術後について、我々はどうしても顎補綴装置のことにも目が向かうのですが、栄養や食道といったより広い視点からのアプローチも必要であると考えさせられた演題でした。

なお次回は2022年9月に、言語聴覚士で国際医療福祉大学教授である倉智雅子大会長のもと「摂食嚥下のSDGs」をテーマに、幕張メッセで開催される予定です。（広報委員 猪原 健）

関連学会のご案内

●第40回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会

会期：2022年2月14日(月)～3月13日(日)
大会長：横尾 聰（群馬大学口腔顎顔面外科学講座・形成外科学講座）

WEB開催（一部ライブ配信）

【運営事務局】株式会社インターグループ

<http://jssoo40.jp/index.html>

●第45回日本嚥下医学会総会・学術講演会

会期：2022年2月24日(木)～25日(金)
大会長：梅崎俊郎（国際医療福祉大学／福岡山王病院音声嚥下センター）
会場：電気ビルみらいホール（福岡県福岡市中央区）

【運営事務局】株式会社学会サービス

<http://gakkai.co.jp/enge45/>

●第48回

日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会期：2022年5月28日(土)～29日(日)
大会長：立入哉（愛媛大学教育学部）

会場：愛媛大学城北キャンパス

【運営事務局】愛媛大学教育学部

<https://jacd48.secand.net/>

●第46回日本口蓋裂学会総会・学術集会

会期：2022年5月26日(木)～27日(金)
大会長：中村典史（鹿児島大学口腔顎顔面外科）
会場：かごしま県民交流センター

【運営事務局】株式会社CSS

<https://ltd-css.jp/jcpa46/>

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 広報委員会

委員長 中島純子

委員 猪原 健、大木明子、関谷秀樹、

堀 一浩、宮本哲郎、吉岡 文

E-mail : max-service@onebridge.co.jp